



本誓寺庫裡

施工地/岩手県紫波郡紫波町
二日町字北七久保
竣工年月日/平成18年4月
敷地面積/2,896.21㎡
構造/木造地上1階地下1階
延床面積/827.97㎡

伝統文化の継承と壇家の創意を充分に取り入れたお寺

紫波町本誓寺は天正12年(1584年)に建築された伝統ある古寺で、今回改築される庫裡は昭和32年に建築された建物です。しかし傾斜地に建設した為、床は傾き、屋根は本堂からの雪の重みで小屋組が波うつ状態で、毎年修繕費がかかる状態でした。今回改築にあたり、3年間ご住職が壇家の昔様と話し合いを重ねることにより生まれた創意を基に、充分にユニバーサルデザインを取り入れ、多くの壇家が庫裡内部施設を利用しご住職と世代の融和が図れる施設作りを務めました。

平面図 a plan

■1階平面図



■地階平面図

様々なシーンで快適な空間創り

真宗大谷派(東本願寺)の活動配置を基本にご住職家族と充分に話し合いを重ね計画しました。玄関、ポーチは車いすでも利用できるスロープを設置し高齢者の利用に配慮しました。事務室は山門又は駐車場が一望でき、お参りに来た檀家さんと何時でも対話の出来る様な仕上がりとなりました。また大寝殿は本堂からの日影を考慮し中庭を広く取り、日影と通風を確保しました。調理室は大寝殿側に配置し法事会場への動線を近くしました。また普賢地蔵の方々が料理教室の場としてご利用される際も快適にお使いになれるような設備環境となっております。荘厳室についても、毎日本堂の花を生けやすくする為の本堂裏面に配置するなど、様々なシーンで快適に過ごしていただける空間を目指しました。

シンプルな外観と機能的な特徴

本来、寺社建築の特徴として屋根のデザインを重要視して計画を進める予定でしたが、ご住職との話し合いの際、「屋根に予算をかけるよりもランニングコスト削減に予算をかけたい」という申し出で、外観はシンプルに、しかし軒の出だけは充分におお外壁の長寿命化を図りました。また施設の主なランニングコスト削減に努めるための計画として、大屋根の雨水利用で男女東司(WC)の排水に使用し水道料金の削減、太陽熱利用で温水タンクにお湯を貯めて給湯ボイラーの運転軽減による灯油代の削減、地中熱利用による住宅部分の全館床暖房床暖ボイラーの運転軽減による灯油代の削減、地中熱循環方式による外部道路の除雪システム(自然エネルギー利用)などをとり入れ、環境への配慮と同時に、檀家さんへの負担軽減へもつなげることができました。



スロープ付き玄関



和室24帖



調理室



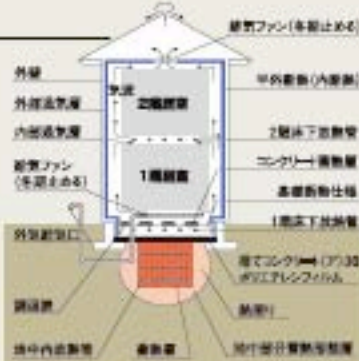
大寝殿

地中熱利用システム概要図

【外部給排水口利用】夏期外気給排水口から給水。扇形のセットファンを利用。扇形の冷気を取り入れながら壁の中の構造体を冷却し、空化への軽減となります。またその効果は冷気の補助ともなる。

【地中内気熱利用】夏期駐車場側設置配管設備と、単独設置のポンプで熱交換。給水の温度を下げると共に、各部のヒーティング用の熱を蓄積する。

【地中内気熱利用】上記設備は夏期住宅内の放熱管と単独設置ポンプで熱交換。住宅内の温度を下げて冷房の補助となり、住宅内の太陽熱を地中で放熱、蓄積する際の補助とする。



中庭2(太陽熱利用システム)



中庭1